



千八百七十八年六月十五日 癸亥 日 新聞抄譯

貿易ドゥラレノ狂氣



406



114
A 3473



貿易「トル」ラレノ狂氣

堀口昇 譯

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

天レ墨西哥「トル」ラレハ完全タル貨幣ノ要務ヲ尽クスヘキ地位
ヲ去ル「」教歩ナルハ疑ヲ容レサル所ナリ
何トナレハ墨西哥「トル」ラレハ何レモ純量同一ニシテ其品位ニ
欠点ナキハ明瞭ナリト云ヒ其鑄造ノ方法ニ於テハ欠点ノ存ス
ルアレハナリ是レ支那^銀銀行者^{スル}ヲシテ其價格ニ付テ姦計ヲ巧
クマシムル所以ニシテ又タ多少偽造ノ弊害ヲ喚起スルノ原因
ナリ
東洋貨幣ノ專斷者タル支那^銀銀行者ハ恣マハニ我意ヲ以テ善
惡貨幣ノ鑒定ヲナス而シテ彼等カ其鑒定ヲナスヤ貨幣ノ重量
或ハ品位ノ如何ニ依ラステテ專ラ其鑄造ノ不完ヲ以テ標
準トナスモノ、如シ

支那^國銀行者ノ斯ル如キ嫌惡ス可キ関涉ヲ停遏セン^ト、企試
ハ近時類リニ諸國ニ於テ為サレタリキ而シテ其企試ノ目的ト
スル所ニ付テ之ヲ論評スレハ信ニ称賛スヘキ挙為ナリシト雖
モ其^畫策者カ豫メ自ラ從事スル企試ノ性質及ヒ之レニ附着ス
ル困難ヲ了知セサリシハ信ニ慨歎ニ堪ヘサル所ナリ
則チ其^畫策者カ成功ヲ求タスニ必須ナル條件ヲ知ラス或ハ之
ニ注意マカリシニヨリテ以上ノ企試ハ悉ク不成功ニ帰セリ
吾輩ノ近時日本政府モ亦タ此不幸ナル敗歟ノ他何ボノ結果ヲ
モ生シ能ハサル下策ニ由テ通貨ノ改正ヲ試ミルヲ見テ鴻歎ニ
想ヘサル所アリ
我輩詳クニ字内ノ形勢ヲ察スルニ墨西哥^{ドル}ラ^ル驅逐セン
^トノ尽カハ如何シノ方畧ヲ以テ之ヲ行フト雖モ到底一時ノ成
功ノ他ヲ望ム^ト能ハサルヘキヲ疑フナリ

墨西哥ハ字内ニ於テ數百年來最モ多量ノ銀ヲ産スル富有ノ地
ナリキ故ニ後來モ猶ホ亦タ此ノ如クナラサルヘカラス
千八百六十年ニ於テ^ド氏ハ^コル^テス^ニ國政府ノ命ヲ得テ墨
西哥^ニ侵入寇ヨリ今日ニ至ル墨西哥國産銀ノ量ヲ槩算シ
テ凡ソ八億万^ポオンドステルリ^ングナラント云ヘリ而シテ其
大數ノ半ハ所謂墨西哥^{ドル}ラ^ルニ鑄造セラレ^テ世^上ニ發行セ
ラレタルナリ
凡ソ銀ノ大量ヲ生スル邦國ハ銀ノ少量ヲ生スル邦國トノ競争
ニ於テ其右ニ立ツヘキ判然タル利益ヲ有スルモノナリ
故ニ産銀ノ点ニ於テ墨西哥ノ他邦ニ卓絶スルト其^{ドル}ラ^ルノ
東洋ニ於テ得タル慣用ト經時効トヲ從セテ之ヲ考フレハ墨西
哥^{ドル}ラ^ルカ^レ復令^ヒ一回他債ノ為メニ敗歟ヲ取ル^トアルモ其
鑄造ノ方法ヲ改良シ既往ヨリ一層完全ナル貨幣トナリテ再々

世上ニ現出スル時ハ直テニ前敗ラ償ヒ再々感ナル勢セリ得ル
ニ至ルヘキハ固ヨリ論ヲ待サルナリ
曩者香港政府ハ貿易ドルラルヲ發行シテ以テ競争ヲ試ミタリ
ト茲モ墨西哥ドルラルニ對シテ如何シノ攻撃ヲモ加ヘルコト
得ナリキ又カリフォルニアハ墨西哥ヨリ多量ノ銀ヲ生マスト
強ニ蓋シ墨西哥ニ比肩スヘキ銀ヲ生スルノ國ナリ然レモ其ド
ルラルヲ以テ數百年ノ慣用ヲ得タル敵兵墨西哥ト拮抗シテ
遂ニ成工ノ得ルコト能ハサリキ
然レモ我輩ハ今以上ニ述フルカ如キ總論ヲ闕キ日本政府ノ近
時ノ政畧ガ如何シニ能ク日本外國貿易ノ原債タル地位ヨリ墨
西哥ドルラルヲ貶墜シ得ヘキカラ論述セン
日本政府ハ今年五月二十七日附ノ公告第十二号ヲ以テ是迄特
ニ開港場ノミニニ於テ通用セル貿易ドルラルヲ後來一般ノ通債

トナシ總テ公私ノ拂方ニ於テ合法貨幣タル可キ旨ヲ公布シ又
同日附ノ公告第十三号ヲ以テ人民私有ノ地銀ヲ鑄造スルノ日
限ヲ減シ又其鑄造費ヲ低下スル旨ヲ公布セリ
報知新聞ハ六月四五ノ兩日ニ於テ右公告ニ関スル論說ヲ
掲ケ其旨趣ハ現時各開港場ニ於テ跋扈スル墨西哥ドルラ
驅逐シテ以テ日本貿易ドルララ之ニ換フルニ在リト論斷セ
リ
凡ソ迂回ノ論理ト忽率ノ臆測トハ日本新聞論說ノ通弊ナリ而
シテ報知新聞ノ論說ノ如キハ竝モ深ク其二弊ニ沈溺スルモノ
ナリ
夫レ經濟ハ学科中ノ難字ナリ而シテ又貨幣論ハ經濟学中ノ難
問ナリ故ニ之ヲ論セント欲スルモノハ知識ノ廣密ト論理ノ精
確トヲ要ス而シテ是等ノモノハ未タ日本記者等ノ才識

ニ入ラサルナリ就中論理ノ精確ノ如キハ決シテ日本人氏、
實ニ非ルナリ

論奇ノ如何シテ問ハス凡テ日本著述ノ書冊ニシテ論理ノ法ニ
称ヘ^ルルモノハ吾輩ノ稀ニ見ル所ナリ

此ノ如ク日本人ノ論理ニ拙ナルハ是レ蓋シ既往数年間日本著
述ノ自由ヲ鉅束メル控^カ梏ノ然ラレムル所多クニ居リ而シテ

近時其鉅束ハ漸々弛緩スヘキニ左ハアラスレテ却テ益々緊密
ニ至リ^ル故ニ往時ニ於テ將來日本ノ著述ハ旺盛ニ趨クヘント

企望シタルモ其企望ハ即テ未タ當ノ時ニ當テ既ニ摘撮セラレ
タリ

晚近日本ノ著述ノ衰頹ヲ蒙ル日一日ヨリモ多ク一年ヨリモ
甚レ故ニ今日ニ在リテハ日本ノ著述ハ徒ニ忽率ニ臆断セル論

旨ニ付テ言語ヲ關ハスノ具トナリ論理ノ法則ノ如キハ度外ニ

措テ更ニ顧ミサルニ至レリ

墨西哥「ドル」ラニ干スル日本新聞ノ論説ヲ読ミスルニ墨西哥
「ドル」ラヲ以テ恰クモ^ス惡ナル外國人ノ如ク見做シ之ヲ告訴

ノ目的トナレ或ハ腕カト詐偽ヲ用エルノ外ハ占有ス可キ権理
ナキ地位ヲ篡奪シタルモノ、如ク非難シ或ハ開港場ニ於テ不

正ニ有害、權ヲ得タリトナレ或ハ世上一般ニ之ヲ嫌惡スルモ
之ニ干セス権柄ヲ掌握シテ放タサルモノトナレ或ハ之ヲ罵詈

スルニ外國貿易ノ集合点ニ於テ當時大害ヲ流スノ原泉ヲ以テ
ス豈抱腹ニ堪ヘサランヤ

日本政府ハ此ノ如キ理論ニ感動サレテ日本開港場ヨリ墨西哥
「ドル」ラヲ驅逐セン^トヲ決心セリ而シテ其目的ノ為メニ其用

ユル方法ヲ見ルニ墨西哥「ドル」ラヨリ凡ソ一分多量ノ銀ヲ
有スル貨幣ヲ合法的トナシ其貨幣ヲ鑄造スル日數ヲ十日ニ減

シ鑄造費ヲ減シテ五厘トナシタル即チ是ナリ是ニ由テ之ヲ見
レハ凡ソ墨西哥「ドルラ」ヲ日本貿易「ドルラ」ニ交換セント
欲スルモノハ十日間ノ利子ノ他ニ一各五厘ノ損失ヲ受ケ一口
五百「オン」スヨリ以カラサル銀量ヲ大改造幣寮ニ送致スルニ由
テ此ノ如クスルヲ得ヘキ記合ナリ
此往返ノ運送費ト他ノ費違テ合算スレハ其交換ニ於ケル全キ
費用ハ殆ント二分五厘ニ至ルヘント思ハル而シテ交換ヲ乞フ
者ハ此幣用ヲ拂フテ墨西哥「ドルラ」カ今日行フ必ノ職掌ヨリ
特別ノ功用ナキ一箇ノ貨幣ヲ得ルノ他ナラサルナリ
何トナレハ日本政府カ其貿易「ドルラ」ヲ内國ノ合法貨幣ト取
極ルト堂モ内國ノ負債者ク之ヨリ廉價ノ紙幣ヲ以テ其負債ヲ
償還スルヲ得ルノ間ハ貿易「ドルラ」ヲ用ヒンヤ亦タ外國人
ト内國人トノ間ノ取引ニ於テ外國人及ヒ内國人ハ日本貿易「ド

ルラ」ヨリモ此少ノ費ヲ以テ墨西哥「ドルラ」ヲ得ヘキ故ニ
寧ロ好シテ之ヲ使用スヘケレハナリ
白痴ニ非ルヨリハ誰カ墨西哥「ドルラ」ハ当今日本ニ於テ知ラ
レタル貨幣中ノ最良ノモノト主張スルモノアラシヤ
外國人ボハ日本外國貿易ノ現況ニ於テ墨西哥「ドルラ」ノ害ヨ
リモ猶ホ一層甚シキ弊害ノ數項ヲ容易ク指示スルヲ得ルト
莫レ猶ホ彼等ハ日本ニ住スル支那銀行者ノ專有スル墨西哥
「ドルラ」ハ苟クモ文明社會ノ以テ満足スヘキ貨幣ニ非ルヲ
許スニ非ラスヤ
若レ日本國ニ住スル外國人中ニ以テ許ト莫レ公益ヲ詢ルノ心
アリレナハ最早既ニ此支那銀行者ノ專有スル「ドルラ」ヲ放
棄シ去ルヲ得又之ニ於テ外國貿易ヲ誦トナセル支那銀行
者ノ群ヲ破リ今日ハ既ニ純量九百ニシテ四百十六「グレ」

重最ヲ有スル銀貨幣ニシテ能ク世人ニ知ラレ且信用不可^刻印アル貨幣ヲ以テ其跡ヲ充タスニ至リタルヘキヲ追思シ在苗人等カ之ニ出テサリシヲ憾メリ

到底日本國ニ於テ外國貿易ニ要スル貨幣ハ支那國銀行者ノ專有スル墨西哥ドルヲルヨリ二分五厘ノ餘費ヲ要スルドルヲルニ非ラスシテ墨西哥ドルヲルト同一ノ品等ニ位スル貨幣ニシテ支那國銀行者ノ為メニ掌握セラレテ無益ノ損失ヲ生スルナキモノ是ナリ

而シテ曩者若シ日本政府カ發行セル円貨ハ實ニ能ク此需メニ應スヘキモノナリヤ故ニ曩者若シ日本政府カ或ハ外國銀行者カ日本円貨ヲ以テ此求需ニ充ツルノ事ニ於テ協議ヲ開クノ意ヲ表セハ今日ニ於テハ既ニ墨西哥ドルヲ驅逐シテ五ニ大利益ヲ得タルヘキ

ナリ

何トナレハ當時日本政府ヨリ其円貨ノ品位ヲ永久ニ維持スヘキヲ外國人ニ告ケテ其心意ヲ満足セシメ以テ之ヲ墨西哥ドルヲルニ代用スルヲ得タルヘシ然ルニ外國人等ハ其原貨トシテ純量九百重量四百十六グレエシノ日本円貨ヲ用ヒ之ヨリ品位或ハ重量ノ劣リタル貨幣ハ決して受取ルヲ拒ミ以テ己ノ利益ヲ保護スルヲ得タルヘケレハナリ

日本ノ円貨カ原貨トシテ行ハルハ即チ日本國ニ於テ其通貨ノ主位ヲ占メ得タルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ又若シ日本円貨カ墨西哥ドルヲル或ハ其ノドルヲルノ下ニ其品位ヲ落サハ墨西哥ドルヲル或ハ其他ノドルヲルハ直チニ之ニ代リテ其位地ヲ占メタルヘキナリ故ニ墨西哥ドルヲルニ代ルニ日本円貨ヲ以テスルノ主權ニ違

スルハ別ニ條約等ノ煩ヲ要セサル易々タル事業ナリキ
日本政府ト外國銀行者及ヒ高買ノ間ノ取極而已ヲ以テ事足り
タルナリ惜哉
然レ此ノ如キ取極ヲナスハ今日ト雖モ未ク猶ホ行ハレサル
モノトナサ、ルナリ
然レ此日本政府ノ今般ク策ハ決シテ日本通貨或ハ外國通貨
ニ對シテ何等ノ應響ヲモ為スル能ハサルモノナリ
何トナレハ若レ日本政府カ其貯蔵スル地銀ヲ悉皆重量四百二
十「グレ」^一ノ貿易「ドル」ニ鑄造セレク即チ貿易「ドル」ハ
鑄造サル、傍側ヨリ速カニ地銀ト化レテ^外國ニ輸出サルハ論
ヲ待ツサルナリ
若レ又日本造幣寮ハ銀ヲ私用スル人民オカ鑄造ノ為メニ一分
五厘ノ費用ヲ出レ且其他往復ノ費用ニ堪ヘテ四百二十「グレ」^一

シノ重量ヲ有スル「ドル」ニ鑄造セラレシメ其地銀ヲ其
所ニ運送スルヲ待タンカ然ラハ造幣寮ハ手ヲ袖ニレテ長ク日
月ヲ空過セサルヲ得ス
故ニ我輩カ茲ニ論スル公告ハ墨西哥「ドル」ヲ驅逐スル効驗
ナク亦タ日本ニ於テ新規ノ合法貨幣ヲ設立スルノ功ヲモ奏ス
ルヲ能ハサルヤ明カナリ
故ニ報知新聞ハ右ノ公告ニ緣由シテ日本國ニ於テ價格本位ノ
紊亂セントニ関シテ憂慮スルヲ止ムヘレ
報知新聞記者ハ日本現時ノ價格本位ハ即チ金ナリ然ルニ今銀
貨ヲ發行スル時ハ大日本ヲシテ金銀兩本位ヲ用ユル諸國ノ卒
面ニ墮落セシムルナリトノ妄迷ヨリ歎々噴々スルモノ、如
シ
嗚呼報知新聞記者ヨ現今日本ニ於テ行ハル、通用貨幣ハ金銀

ニ非ラス紙幣ナリ而シテ紙幣ハ國立銀行ノ増殖及ヒ其他ノ原
因ニ基キ益々多キヲ加フルカ故ニ先ツ当令ニ於テハ決レテ其
他ノ貨幣ノ為メニ通貨タル其地位ヨリ貶黜サルハノ憂虞ナキ
トノ事實ニ注意シテ其心慮ヲ慰安セヨ
報知新聞記者ヨ日本政府カ発行セル第十一号第十三号ノ公告
ハ銀ドルラレノ使用ヲ人民ニ許可スルト虽モ其実物ヲ給与セ
サルカ故ニ全ク徒法ニ過キスニテ誰人ヲモ害セサレハ亦タ益
スルトモナレ故ニ斯ノ如キ法令ニ関レテ詳論細議スルハ實ニ
貴重ノ時間ヲ徒消スルモノタルトヲ知レ

